

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0737
施設名	同援さくら保育園
施設所在地	豊島区南池袋3-7-8
法人名	社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

安心して過ごせる、くつろぎのある環境づくり

<テーマの設定理由>

保育園という集団生活の中でも安心できる環境の中で過ごせることが情緒の安定につながり、主体的な関わりの基盤になると考えた。日頃から絵本に興味を示し、保育者のそばでゆったりと過ごす姿が多く見られたことから、くつろぎながら安心して過ごせる空間づくりをテーマとして設定した。

2. 活動スケジュール

令和8年1月から令和8年3月以後継続して行う

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

今まで設けていた絵本コーナーにソファ一体型の本棚を設置し、周囲にマットを敷いて安心して座ったり横になったりできる空間を整えた。
絵本は子どもの発達や興味に合わせて選び、既存の本棚、絵本用ウォールポケットにも表紙が見えるように配置することで、自ら手に取りやすい設定とした。
また、パーテーション等を用いて空間を区切ることで、落ち着いて過ごせる環境を確保した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

安心して過ごせる絵本コーナーの中で子どもが自ら絵本に近づき、手に取ったりページをめくろうとしたりする姿を大切にしました。

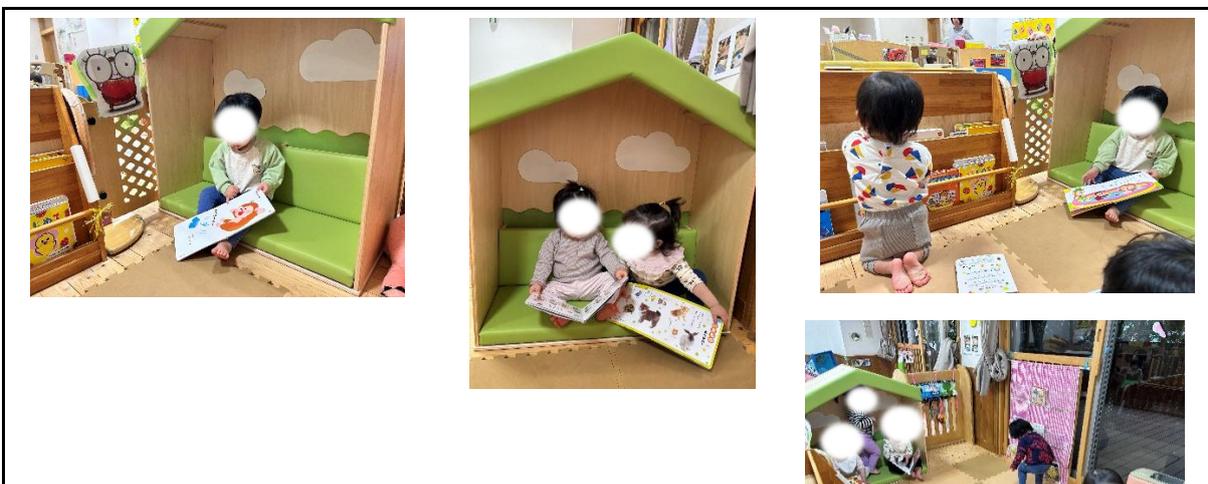
触れる、叩く、口元に近づける等、素材に関わる行動も探究の姿として受け止め、保育者は安全に配慮しながら見守った。

また、隣で絵本を見る友達の様子に視線を向ける場面も見られ、同じ空間を共有する中で興味が広がる姿があった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

絵本コーナーに自ら近づき、ソファやマットに腰を下ろしてページをめくろうとする姿が見られた。気になる絵に指を差したり、喃語や「わんわん」「きゅうきゅうしゃ」「あか」等の簡単な単語などを発したりしながら思いを表現する様子もあった。

保育者が隣に座り、子どもの視線に合わせて言葉を添えると、再びページをめくろうとする姿が見られた。また、隣に座る友達の動きに目を向け、同じ絵本に手を伸ばすなど、他児の存在に気付く場面も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

絵本コーナーに自ら近づき、ソファに座ってページをめくろうとする姿や、指差しや喃語で思いを表現する様子が見られたことから、安心して過ごせる環境が子どもの主体的な関わりにつながっていると感じた。また、隣にいる友達の動きに視線を向け、同じ絵本に手を伸ばしたり、のぞき込んだりする姿もあり、空間を共有することが関心の広がりにつながっていることにも気付いた。

振り返りを通して、保育者が関わりすぎず、環境を整えながら見守る事の大切さを実感し、乳児期の探究は、繰り返し触れたり試したりする姿の中にあり、その一つひとつを丁寧に受け止めていくことが重要であると改めて認識した。